

「空飛ぶクルマ」の夢 連携して実現へ



空飛ぶクルマのイメージ(提供:スカイドライブ)

関係者は「この強みと特長を生かして5年後の社会実装を目指す、地域産業の発展にもつなげたい」と意気込んでいる。

飯田には航空機産業で培った技術と、ドローンと空飛ぶクルマの環境試験に必要な設備の約8割がある。

飯田には航空機産業で培った技術と、ドローンと空飛ぶクルマの環境試験に必要な設備の約8割がある。

この空飛ぶクルマを含む次世代モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト「ReAMoプロジェクト」の1つが、飯田市を舞台に昨年からはじまっている。

空飛ぶクルマはこのドローンを大型化したといえるもので、冒頭のような「空の移動革命」をもたらす可能性がある。2025年の大阪・関西万博での飛行が計画され、同万博の目玉として話題になっている。

昨年12月5日施行の改正航空法によって、ドローンの「レベル4」が制度上解禁され、操縦者から機体が見えない状態でも住宅地で飛ばせるようになり、物資の運搬などの「空の産業革命」に対する期待が高まっている。

リニア中央新幹線県内駅を降りた人が、空飛ぶクルマ(次世代空モビリティ)に乗って南アルプスや遠山郷に向かう。そんな時代がそう遠くないうちに実現しそうだ。

27
28
29 DMO特集
昼神温泉 出湯50周年
天竜舟下り 新たな船出へ
松川町観光のブランド創造

第3元旦号

21
22
23 特集・空飛ぶクルマ
ドローンが描く空の未来図
25 三遠南信Biz 昆虫食ビジネス
26 飯田下伊那 むかしといま

南信州

発行所
南信州新聞社
〒395-0152 飯田市青良町2-2-5
電話 (0265) 代表 ☎3734
編集 ☎0704 FAX ☎7072
営業 ☎0352 FAX ☎0537
出版 ☎3732 FAX ☎7072
振替口座 00590-0-3452

リオネットセンター
飯田

補聴器
認定補聴器専門店
認定技術者専任

☎(0265)49-0250
飯田市白山町3丁目南5-5

研究開発 統括責任者

信大・柳原特任教授に聞く

「飯田を認証の拠点に」



柳原 正明氏 (66)

京都大学大学院航空工学専攻修士課程終了。JAXAで長年にわたって飛行システムの技術開発や研究に携わり、2016年から信大特任教授。

ReAMoプロジェクトの研究開発統括責任者を務める信州大学工学部の特任教授で、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の客員研究員でもある柳原正明さんに事業の背景やポイント、目標を聞いた。

「概要を分かりやすく説明してください。空飛ぶクルマに使うモーターやコントローラー、プロペラといった電動推進システムの設計と製造承認に向けた環境試験技術の研究開発を行う。この部分は空飛ぶクルマやドローンの技術開発の肝になる。」

「国際標準化」といっていいかという標準が今後できてくるわけで、そこをわれわれがまず先行的にエス・バードなどで開発をして、4つの国際標準化団体に提案して国際標準として認めてもらおうというところ。これが最終目標となる。また日本ではやったことがなく、第一号を目指そうとしている。」

「具体的なにはどのように進めていきますか?」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「具体的にはどのように進めていきますか?」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「具体的なにはどのように進めていきますか?」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

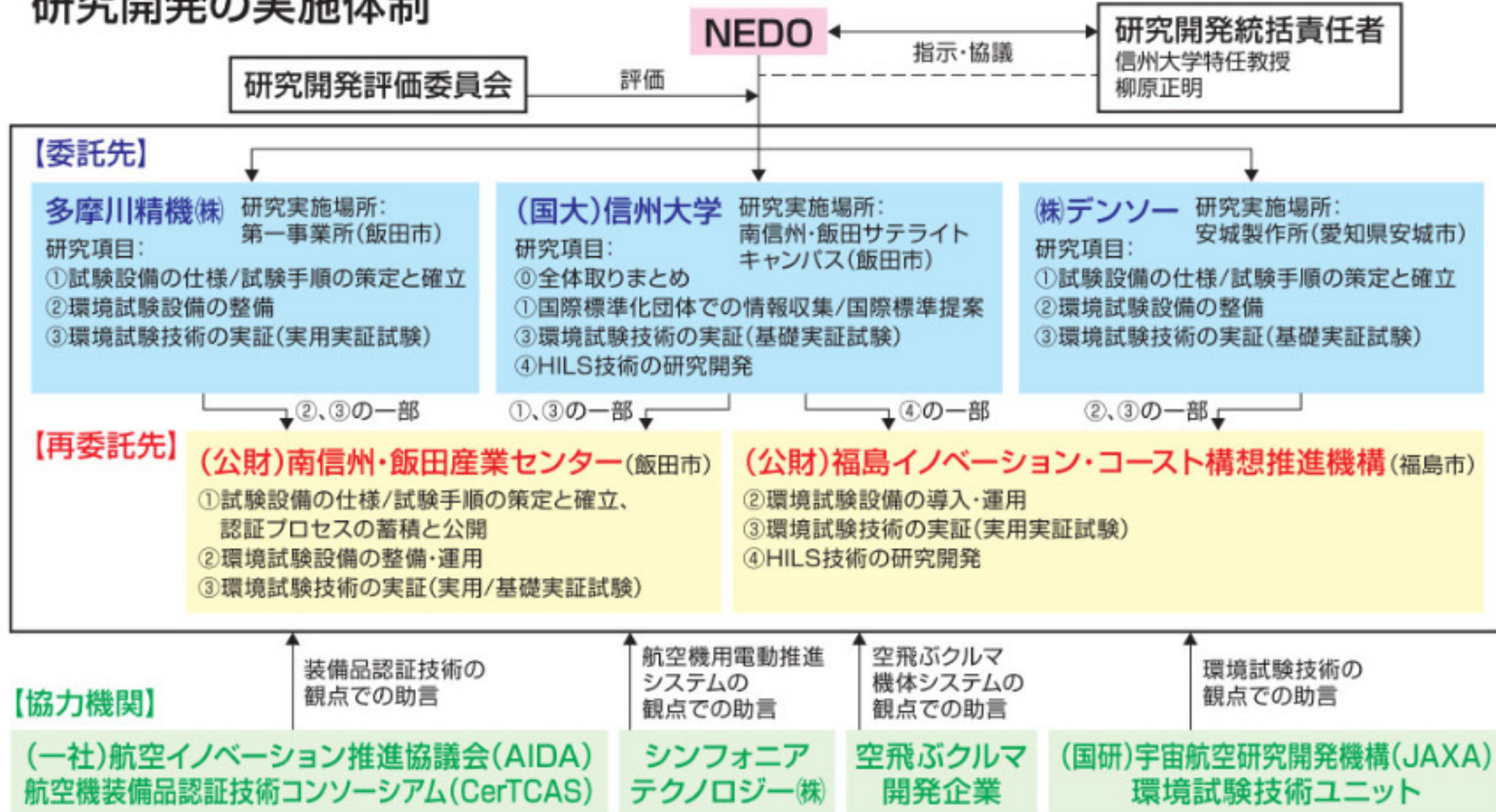
「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」

「国際標準化団体はさまざまなメーカーなどで構成し、当局も参加して議論を聞き、それぞれの標準が決まってくるわけだが、日本はこれまで標準の決定に参画しておらず、決まったことに沿うものを作るという受け身の姿勢だった。」



飯田には国内有数の環境試験機器がある

研究開発の実施体制



「具体的なにはどのように進めていきますか?」

これまでの蓄積生かし



空飛ぶクルマの商用機 (提供: スカイドライブ)

電動推進システム(軽量電動モーター)は日本の強みとなり得るもので、デンソーと多摩川精機はこの分野において一日の長がある。このうち地元多摩川精機は、民間航空機のセンサーやモーターを長く手掛け、コロナ禍とほぼ同時に進んだ航空機電動化の流れに対応し、この3年ほどかけてドローン用モーターの開発を手掛けてきた。

熊谷秀夫専務は軽量化と安全担保の両立を課題として挙げ「事業性としてはかなりある。空飛ぶクルマなどのモビリティの市場は民間航空機と比べ物にならないくらい大きい。5年後には社会実装できるようにしたい」と話す。



次世代空モビリティの産業発展に向け南信州・飯田産業センターと福島イノベーション・コースト構想推進機構が連携協定 (昨年11月)



佐藤健市長はリモートで参加

モーター開発に活路を